

第70号 通巻13巻 第3号  
1993年9月1日 発行  
守山市立埋蔵文化財センター  
☎0775-85-4397  
〒524-02  
守山市服部町2250番地

はじめに

長い梅雨が明けて、夏らしくなったと思っていたらもう秋の気配が漂っています。発掘調査の現場から学生の姿を見かけなくなるのもこの季節です。今号では7～8月中に市内で実施した発掘調査の成果をお伝えします。

【発掘調査だより】

◆ 吉身西遺跡の調査

守山町字南高田で、共同住宅建築に先立ち約400㎡を対象に発掘調査を実施しました。その結果、調査区の北端で方形周溝墓1基、平安時代及び近世の溝を検出しました。方形周溝墓は、昭和60年に区画整理事業に先立ち調査した残りの部分にあたり、L字状の周溝部を検出しました。周溝からは弥生時代中期末の壺4点、高坏1点、甕1点が出土しています。いずれも溝底から、約30cmほど浮いた状態で出土していて、方形周溝墓に供えられていた土器が溝内に転落したものと考えられます。また近世の溝は区画整理以前に流れていた川に沿うように、その下層において検出しました。

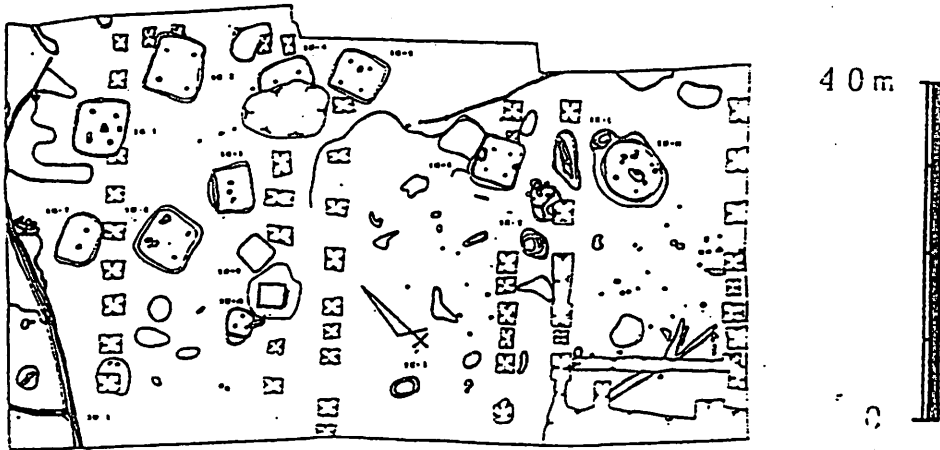
◆ 酒寺遺跡の調査

7月末日をもって2つ目の調査区の発掘調査を終了しました。現在までに、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居15棟、井戸7基以上、古墳時代前期の溝、古墳時代後期の竪穴住居1棟、掘立柱建物2棟以上を検出しています。弥生時代の竪穴住居は中期末、後期前半、後期中葉、後期後半の4期にわたって営まれて

【平成5年7月～9月1日までの調査】

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	調査面積
(1)	酒寺遺跡	播磨田町	店舗建設	前年度より継続	約10,000㎡
(2)	欲賀城遺跡	欲賀町	ほ場整備	前年度より継続	約10,000㎡
(3)	下長遺跡	古高町	工場用地	5.18～	5,072㎡
(4)	大洲遺跡	阿村町	道路改良	6.21～	2,880㎡
(5)	吉身西遺跡	下之郷町	河川改修	7.21～	約1,500㎡
(6)	吉身西遺跡	守山町	共同住宅	8.12～8.24	400㎡

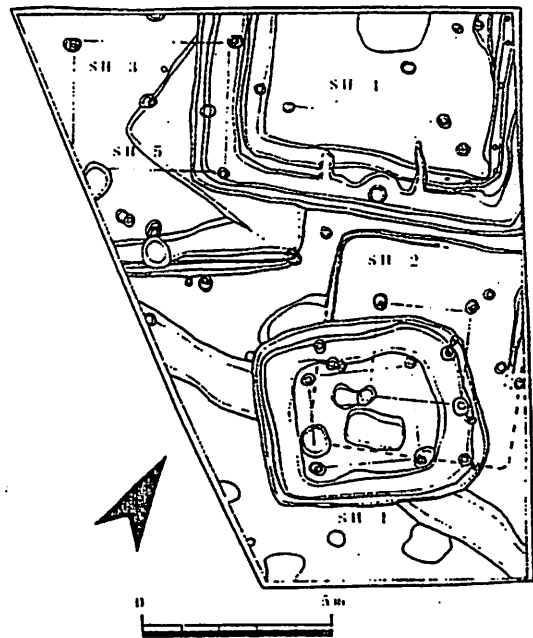
いて、一時期4～5棟からなる小集落であったと考えられます。朱を加工していた石杵が出土した後期中葉の竪穴住居からは壺・甕・高坏などの完形の弥生土器が発見されています。他の住居からはほとんど土器が出土しなかったことからみて、この住居は道具をもちださないまま廃棄されたものと考えられます。現在、同調査区の東側を調査中ですが、古墳時代中期末の古墳跡が検出されています。その内容については次号でお伝えできるものと思います。



▲ 酒寺遺跡調査全体図

◆ 大洲遺跡の調査

6月21日から阿村町地先において実施している大洲遺跡の調査も、調査対象地の過半の作業を終えようとしています。栗東町域に近い南西端からスタートして北東方向に向かって調査を進めています。現在までの調査の結果、南西部では弥生時代後期の竪穴住居7棟が検出されていて、伊勢遺跡の同時代の集落がこの地点にまで広がると考えられます。右図は南西端から3番目の調査区の平面図ですが、ここからは4棟の竪穴住居が重複して検出された他、同時代の溝や土壇もみつかってい



▲ 大洲遺跡遺構平面図

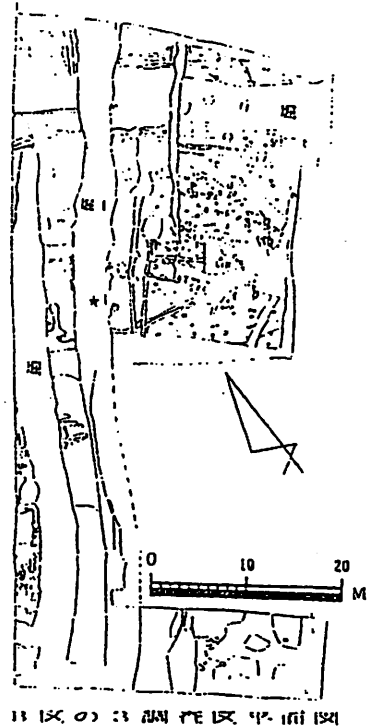
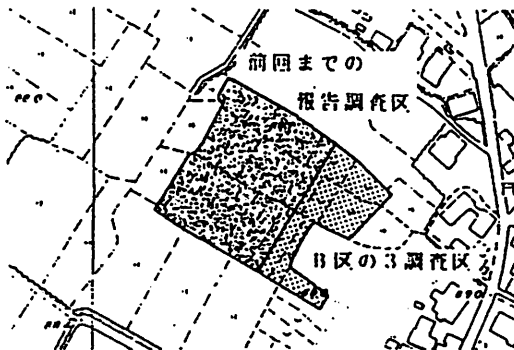
ます、竪穴住居はすべて方形で、小型のものでは一辺4.8-5.8mを測るほか、一辺約10mの大型の住居も見つかっています。これらの住居はいずれも弥生時代後期に継続して営まれたと考えられます。この地点から北東約30mの地点では竪穴住居が見られなくなります。今回の調査地点では、伊勢遺跡と同じ時代の遺構が検出されたことから伊勢弥生集落の東端にあたると考えられ、大規模な集落であったことが確認されました。

#### ◆ 吉身西遺跡の調査

道路改良工事に先立ち約 1,500㎡を対象に発掘調査を実施しています。現在までに弥生時代中期末の方形周溝墓4基、中世の溝跡が検出されています。方形周溝墓は南北方向に並んでいて、列状の長大な墓域を形成している可能性があります。方形周溝墓の溝底からは、水差し・壺・甕・高坏などの供献土器が出土しています。中世と考えられる溝は、現在の地割りの方向に一致していて条里制との関係が注意されます。

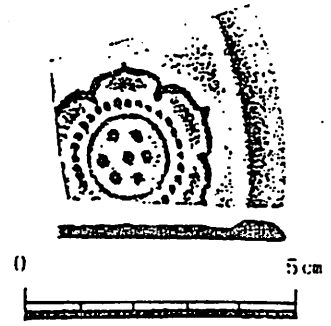
#### ◆ 欲賀城遺跡の調査

現在、新しい地点（B区3調査区）の調査をすすめています。ここでは、中世の集落に伴う堀や溝、井戸などが検出された他、弥生時代後期から古墳時代にかけての柱穴や溝などがみつかりました。中世の溝からは多量の土師器皿とともに、漆器の椀が1点出土しています（★地点）、この調査域では、はじめて弥生時代後期に溯る遺構が検出されたことから、この周辺に同時代の集落が広がっているものと予想されます。



◆ 下長遺跡の調査（第13次調査）

前号の乙頁では縄文時代中期末の竪穴住居について報告しました。その後、縄文時代中期の土壇や落ち込みなどが新たに見つかり、集落がさらに西側へ広がる事が確認されました。これらの遺構からは縄文土器や石器などが出土しています。その他、平安時代の溝や掘立柱建物が検出されています。溝からは、大量の土器とともに、銅鏡の破片が出土しています。



▲ 下長遺跡出土銅鏡

~~~~~特別展開催のお知らせ~~~~~

守山市立埋蔵文化財センターでは、平成5年9月15日(祝)から9月29日(水)までの期間、特別展示会を開催いたします。今回は『稲作の古代史』と題して、2千年以上の歴史をもつ米作りの歴史について、市内および県内で発掘された稲作関連資料を展示します。稲作が始まったことで、1年の過ごし方やムラの在り方など、さまざまな変化が起こったと考えられます。まだまだ不明な点が多いテーマですが、現在までに明らかになっていることを整理し、大きな転換期にさしかかっている米作りを考える機会となればと考え企画しました。多数お越しくくださるよう御案内いたします。

《関連行事》講演会『近江の在来稲』講師 小川正巳氏 三共(株)主席研究員

9月23日(祝)午後2:00～ 2F会議室

『稲作のはじまりを科学する』講師 外山秀一氏(皇学館大学)

9月26日(日)午後2:00～ 2F会議室

体験学習会 『古代、食の体験』(参加希望者を募集しています。)

9月19日は石包丁の製作、稲の収穫と脱穀。

9月23日には米の調理、試食会を行います。

開館時間は午前9:00から午後4:00までです。なお開催期間中は無休です。

問い合わせは守山市埋蔵文化財センター迄 守山市服部町2250(☎0775 85 4397)

【後記】7月31日には播磨田町の酒寺遺跡で、8月7日には古高町の下長遺跡において現地説明会を行いました。多くの方々が、水銀朱を加工していた石杵や、県内でも珍しい縄文時代中期末の石囲い炉をもつ住居の見学に訪れました。貴重な発掘調査の成果を、現地で見て頂けるよう今後とも努めたいと思います。(BK)